

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-314648

(43) 公開日 平成11年(1999)11月16日

(51) Int. Cl.⁶

識別記号

F I

B 6 5 D 33/14

B 6 5 D 33/14

Z

30/10

30/10

M

30/16

30/16

A

33/25

33/25

A

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号

特願平10-125049

(71) 出願人 000147316

株式会社生産日本社

東京都千代田区麹町5丁目3番地

(22) 出願日

平成10年(1998)5月7日

(72) 発明者 谷野 充

静岡県浜松市有玉北町2136-1

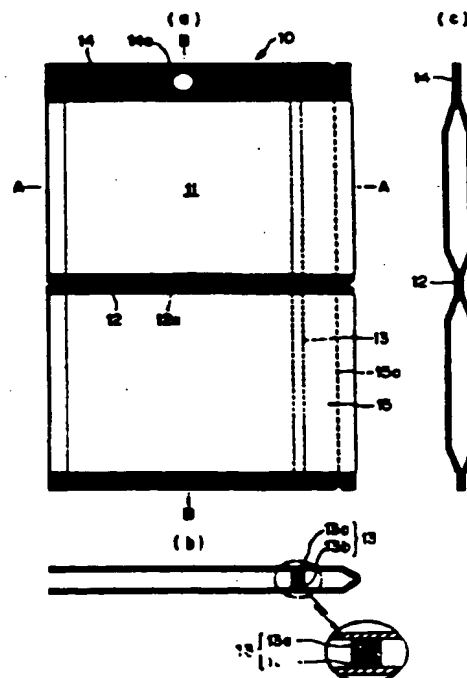
(74) 代理人 弁理士 祐川 樹一 (外2名)

(54) 【発明の名称】 咬合部付き包装袋

(57) 【要約】

【課題】 粉体、粒体、顆粒体、液体などの流動性を有する被包装物を偏在することなく分包して封入することができ、袋の取り扱い時に袋自体の優れた保形性と保持強度を発揮することができ、特に食品、医薬品などの吊り下げ陳列時において取り扱いに好適な包装袋を提供することである。

【解決手段】 袋本体11の中央部分に該袋本体11を上下に区分するヒートシール部12を設けるとともに、該袋本体11の側端部分または中央部分に該ヒートシール部12と交差して該袋本体11を開閉自在にする咬合部13を設け、袋本体11の最上部分に吊り下げ部14を設けたものであって、袋本体11内の内容物の偏在を防止して、袋の取り扱い時に袋自体の優れた保形性と保持強度を発揮することができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 袋本体の中央部分に該袋本体を上下に区分するヒートシール部を設けるとともに、該袋本体の側端部分または中央部分に該ヒートシール部と交差して該袋本体を開閉自在にする咬合部を設け、該袋本体の最上部分に吊り下げ部を設けたことを特徴とする咬合部付き包装袋。

【請求項2】 前記ヒートシール部に分割用裁断線が刻設されていることを特徴とする請求項1記載の咬合部付き包装袋。

【請求項3】 前記咬合部に対向する側端部分に自立用袋底部が形成されていることを特徴とする請求項1または2記載の咬合部付き包装袋。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、粉体、粒体、顆粒体、液体などの流動性を有する被包装物を偏在することなく封入することができ、袋の取り扱い時に袋自体の優れた保形性と保持強度を発揮することができ、特に、食品、医薬品などの吊り下げ陳列に好適な包装袋に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、咬合部付き包装袋、いわゆる、チャック付き包装袋に吊り下げ部を設けたものとしては、例えば、実公昭53-46966号公報、特開昭62-52004号公報に示されているようなチャック付き包装袋がある。これらのチャック付き包装袋は、開閉用チャック部の形態を工夫することによって、収納物を出し入れ自在として使い易さの向上を図ろうとするものである。

【0003】また、粉体、粒体、顆粒体、液体などの流動性を有する被包装物に適した包装袋として、例えば、実開昭62-31036号公報、実開昭63-32179号公報に示されているような包装袋がある。この包装袋は、袋の複数箇所において表裏両面を接合することによって、流動性を有する被包装物が袋内で自在に流動して偏ること、いわゆる、偏在を防止し、包装袋の局所における過度の膨出を無くして包装袋全体としての取り扱いを向上させようとするものである。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】上述したような包装袋では、開閉用チャック部の形態、流動性を有する被包装物の偏在を防止するための形態などを改善しているに過ぎなく、袋の取り扱い時に要求される袋自体の優れた保形性や保持強度、あるいは、吊り下げ陳列に好適な袋形態などについて改善しておらず、包装袋全体としての使い易さが不十分であった。

【0005】すなわち、前者の包装袋では、開閉用チャック部の上方に吊り下げ部を設けたことによって、陳列販売などの吊り下げ時における被包装物の自重に起因す

るチャック部の外れで被包装物の散逸などが生じないように改善されているが、流動性を有する被包装物の偏在を防止することについて何ら配慮されていないので、包装袋全体としての保形性や保持強度を向上させるに至らず、また、流動性を有する被包装物が下方に偏在すると、吊り下げ陳列時に内容物の不足感を生じて購買意欲を低下させたり、積み重ね方式による陳列時に積み重ねられた包装袋が山崩れなどを生じ易く、取り扱いに必要な以上の手数を要するという欠点があった。

10 【0006】また、後者の包装袋では、流動性を有する被包装物の偏在を防止することについて改善されているが、袋の取り扱い時に要求される吊り下げ陳列に好適な袋形態、あるいは、内容物を使用する際の開閉自在なチャック形態などについて何ら配慮されていないので、包装袋としての使い易さを十分に発揮することができないという欠点があった。

20 【0007】本発明の目的は、粉体、粒体、顆粒体、液体などの流動性を有する被包装物を偏在することなく分包して封入することができ、袋の取り扱い時に袋自体の優れた保形性と保持強度を発揮することができ、特に、吊り下げ陳列時の取り扱いに好適な包装袋を提供することである。

【0008】

【課題を解決するための手段】本発明は、袋本体の中央部分に該袋本体を上下に区分するヒートシール部を設けるとともに、該袋本体の側端部分または中央部分に該ヒートシール部と交差して該袋本体を開閉自在にする咬合部を設け、袋本体の最上部分に吊り下げ部を設けた咬合部付き包装袋によって、前記課題を解決した。

30 【0009】なお、本願発明に設けた吊り下げ部の形態については、製作工程や製作コストの面から簡便な熱溶断手段を用いて穿孔した吊り下げ穴を採用しているが、例えば、別体のフック状部材を付設してなる吊り下げフックなどであっても差し支えないし、さらに、該吊り下げ穴の形態が袋本体を携帯して運搬することができるような把持穴を兼ねても良い。

40 【0010】また、本願発明の咬合部付き包装袋におけるヒートシール部は、袋本体を上下方向に少なくとも2以上に区画して内容物を分包するためのものであり、公知の熱溶着手段などによって形成されており、さらに、このヒートシール部には、袋本体を上下方向に二分割するためのミシン目などの分割用裁断線が刻設されている。なお、この分割用裁断線の一端もしくは両端に、裁断を開始し易いように切り込み部を設けておくことが開封時の取り扱いの面でより好ましい。

50 【0011】そして、本願発明の咬合部付き包装袋における咬合部には、吊り下げ陳列時に内容物を袋本体に確実に封入して保持するとともに前記咬合部に対して内容物の内圧を軽減するための開口用封止部が隣接して設けられている。また、この開口用封止部には、封入された

内容物を使用する際に開口するための開口用裁断線が刻設されている。

【0012】さらに、本願発明の咬合部付き包装袋における咬合部と対向する側端部分には、袋本体の一部を分離して使用する際に袋底部が自立するための自立用袋底部が形成されている。なお、この自立用袋底部は袋底部をV字状に折り込んで形成されるが、これ以外の自立構造を採用しても差し支えないが、いずれにしても包装袋の成型時に形成される。

【0013】また、本願発明の咬合部付き包装袋の材質については、袋本体に対して熱溶着手段などによるヒートシールが可能であれば、合成樹脂製フィルムシートの単独シート、もしくは、異なる合成樹脂製フィルムシートを積層してなる複合シート、あるいは、合成樹脂製フィルムシート、アルミ箔、紙などを積層してなるラミネートシートのいずれのシートを用いても、差し支えない。そして、本願発明の咬合部付き包装袋が食品、医薬品などに用いられる場合には、安全性の面から材質が厳選されることは言うまでもない。

【0014】また、本願発明の咬合部については、袋本体と別体の凹溝部材と凸条部材を接着手段もしくは溶着手段によって袋本体の内部側に添着して形成するか、あるいは、袋本体のフィルムシート成型時にフィルムシートに凹溝、凸条をそれぞれ一体成型することによって咬合部を形成すれば良い。

【0015】

【作用】本願発明の咬合部付き包装袋は、袋本体の中央部分に該袋本体を上下に区分するヒートシール部を設けるとともに、該袋本体の側端部分または中央部分に該ヒートシール部と交差して該袋本体を開閉自在にする咬合部を設けたことによって、封入された内容物が複数のヒートシール部を仕切りとして分包される。この時、封入された内容物は、袋本体の下方に偏在することがなく分画されて封入されるため、袋本体の下方部分に局部的な膨出を生じることがなく、袋全体がバランスの取れた外觀形態を呈するとともに、咬合部に対する内圧を抑制する。

【0016】

【実施例】図1乃至図3は、本発明による咬合部付き包装袋の実施例を示した図である。まず、図1は本発明による咬合部付き包装袋の一実施例を示したものであり、同図の(a)はその正面図であり、(b)は(a)図のA-A断面図であり、(c)は(a)図のB-B断面図である。

【0017】本実施例の咬合部付き包装袋10は、合成樹脂製フィルムシートからなる袋本体11を上下方向の2つに分割して区画するヒートシール部12と、袋本体11の一側端部分にヒートシール部12と交差して袋本体11を開閉自在にする咬合部13がそれぞれ配置されてなり、袋本体11の最上部分には吊り下げ部14が設

けられている。そして、この咬合部13は、袋本体11を形成する前段階において前記合成樹脂製フィルムシートに、別部材からなる凹溝13aと凸条13bとを熱接着して形成される。また、袋本体11を開閉自在にする咬合部13には、前記合成樹脂製シートを折り返した後、開口用裁断線15aを刻設して形成される開口用封止部15が近接して設けられており、封入された内容物が使用されるまで確実に封止されている。

【0018】さらに、袋本体11の最上部分に設けられた吊り下げ部14は、吊り下げて陳列するための吊り下げ穴14aが穿設されている。また、前記ヒートシール部12には、袋本体11を上下方向に分割するための分割用裁断線12aがヒートシール部12の中央に刻設されている。そして、この分割用裁断線12aの両端には、裁断時に分離し易いように切り込み部が設けられている。

【0019】このようにして得られた本実施例の咬合部付き包装袋10を使用する際には、袋本体11の側端部分から内容物を封入する。そこで、袋本体11に封入された内容物は、ヒートシール部12によって2つの区画に分包されたような封入状態となり、袋本体11に局所的な膨出部分がなく、袋全体に内容物が無理なく充填された、いわゆる、バランスの取れた封入形態となって、その取り扱いなどが簡便となる。したがって、吊り下げ陳列する際にも、ヒートシール部12が袋本体11の下部に封入されている内容物を一旦保持しながら保形してくれるため、袋本体11に封入した内容物の全重量が集中的に吊り下げ穴14aに付加されることがないので、袋本体11の最上部分において吊り下げ穴14aのみが吊り上がり、その両端が垂れ下がる、いわゆる、型崩れ現象もなく、吊り下げ陳列時の見栄えが良いので、本来の商品価値を保持することができ、しかも、使用時に袋本体11を開閉自在にする咬合部13に過度の負担を懸けないので、内容物の散逸などの恐れもない。

【0020】次に、図2は本発明による咬合部付き包装袋の他の実施例を示したものであり、同図の(a)はその正面図であり、(b)は(a)図のC-C断面図である。

【0021】本実施例の咬合部付き包装袋20は、前述した咬合部付き包装袋10と基本的に同じ袋構造を有している。すなわち、熱接着性の合成樹脂フィルムシートからなる袋本体21を上下方向の2つに分割して区画するヒートシール部22と、このヒートシール部22と交差して袋本体21を開閉自在にする咬合部23がそれぞれ配置されてなり、袋本体21の最上部分には吊り下げ部24が設けられている。

【0022】そして、袋本体21を開閉自在にする咬合部23には、袋本体21に熱接着された別部材からなる凹溝23aと凸条23bを有した開閉自在な咬合構造が採用されている。さらに、袋本体21を開閉自在にする

咬合部 23 には、内容物を封入するとともに封入された内容物が使用されるまで確実に封止するための開口用封止部 25 が近接して設けられており、さらに、この開口用封止部 25 には、使用時に開口するための開口用裁断線 25a が刻設されている。

【0023】さらに、この吊り下げ部 24 は、吊り下げて陳列するための吊り下げ穴 24a が穿孔されている。また、前記ヒートシール部 22 には、袋本体 21 を上下方向に分割するための分割用裁断線 22a がヒートシール部 22 の中央に刻設されている。そして、この分割用裁断線 22a の両端には、裁断時に分離し易いように切り込み部が設けられている。

【0024】また、本実施例の咬合部付き包装袋 20 は、自立用袋底部 26、いわゆる、スタンドバック形態が袋底部を V 字状に折り込むことによって、咬合部 23 に対向する側端部分に形成されている。

【0025】したがって、本実施例の咬合部付き包装袋 20 の場合には、前述した咬合部付き包装袋 10 が有している特有の効果に加えて、袋本体 21 の一部を分離して使用した際に袋底部が自立できるため、その取り扱いが簡便となるという効果を有している。さらに、図 3 は本発明による咬合部付き包装袋のさらに他の実施例を示したものである。

【0026】本実施例の咬合部付き包装袋 30 は、前述した咬合部付き包装袋 10 の基本的な袋構造を左右対称に配置したものである。すなわち、熱接着性の合成樹脂フィルムシートからなる袋本体 31 を上下方向の 2 つに分割して区画するヒートシール部 32 と、このヒートシール部 32 と交差して袋本体 31 の各区画を開閉自在にする咬合部 33、33 がそれぞれ配置されており、袋本体 31 の最上部分の中央には吊り下げ部 34 が設けられている。また、前記咬合部 33、33 は、袋本体 31 の中央部分に配置されている。そして、これらの咬合部 33、33 の間には、袋本体 31 を左右に分離して使用するため、封入された内容物が使用されるまで確実に封止する開口用封止部 35、35 がそれぞれ並設されており、これら開口用封止部 35、35 には、開口用裁断線 35a、35a がそれぞれ刻設されている。そして、これら開口用封止部 35、35 間には、袋本体 31 を左右に分離するための少なくとも一端に切り込み部が設けられた分離用裁断線 37 が刻設されている。さらに、前記ヒートシール部 32 の中央には、袋本体 31 を上下方向に分割するための分割用裁断線 32a が刻設されており、この分割用裁断線 32a の両端には、裁断時に分離し易いように切り込み部が設けられている。

【0027】したがって、本実施例の咬合部付き包装袋 30 の場合には、前述した咬合部付き包装袋 10 が有している特有の効果に加えて、袋本体 31 を 4 区画に分離して分包することができるため、その吊り下げ陳列が効率的である。

【0028】以上のように、本発明の咬合部付き包装袋は、粉体、粒体、顆粒体、液体などの流動性を有する被包装物を偏在することなく封入することができ、袋の取り扱い時に袋自体の優れた保形性と保持強度を発揮することができ、特に吊り下げ陳列に好適なことができるという効果を奏する。

【0029】

【発明の効果】本発明の咬合部付き包装袋は、袋本体の中央部分に該袋本体を上下に区分するヒートシール部を設けるとともに、該袋本体の側端部分または中央部分に該ヒートシール部と交差して該袋本体を開閉自在にする咬合部を設け、袋本体の最上部分に吊り下げ部を設けたことによって、以下のような本願発明に特有の効果を奏することができる。すなわち、

(1) 包装袋の内部において内容物が偏在することがなく分包された状態となるため、吊り下げて陳列した時には内容物が包装袋全体にわたって均一に存在するので、従来の包装袋に見られるような吊り下げるための余分なスペースを必要とせず、内容物に対する不足感を払拭することができ、しかも、包装袋の全面にわたって見栄えもよく、購買意欲を向上させることができる。

【0030】(2) ヒートシール部が袋本体の下部に封入されている内容物を一旦保形しながら保持するとともに袋本体の内圧を抑制してくれるため、袋本体に封入した内容物の全重量が直接的かつ集中的に吊り下げ穴に付加されることがないので、包装袋自体が優れた保持強度を発揮するとともに、袋本体の最上部分において吊り下げ穴のみが吊り上がり、その両端が垂れ下がる現象、いわゆる、型崩れ現象がなく、袋本体を開閉自在にする咬合部に過度の負担を懸けないので、咬合部からの内容物の散逸などを回避することができる。

【0031】(3) 包装袋を積み重ねて陳列した時には、包装袋の内部において内容物が偏在することがなく分包された状態となっているため、山崩れを起こす恐れがないので、積み重ねによる陳列作業が簡便であり、従来の包装袋において行われていたような積み直しなどの余計な手間を省くことができる。

【0032】(4) 包装袋を箱詰めした時には、包装袋の内部において内容物が偏在することがなく分包された状態となっているため、箱詰め of 充填効率がよく、また、咬合部などに生じがちな過度の折り癖や破損を回避することができる。

【0033】(5) ヒートシール部に分割用裁断線が刻設されているため、包装袋に封入されている内容物を使用する際に、下方に分包されたものから順次使用できるので、内容物が食品、医薬品であった場合にはその使用と保存の面で衛生的な取り扱いができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明による咬合部付き包装袋の一実施例を示した図。

【図2】 本発明による咬合部付き包装袋の他の実施例を示した図。

【図3】 本発明による咬合部付き包装袋のさらに他の実施例を示した図。

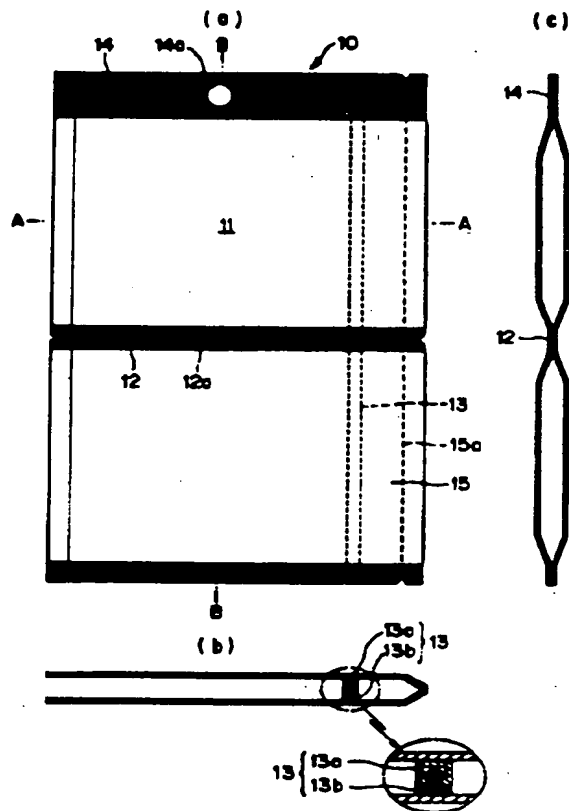
【符号の説明】

10, 20, 30 …… 咬合部付き包装袋

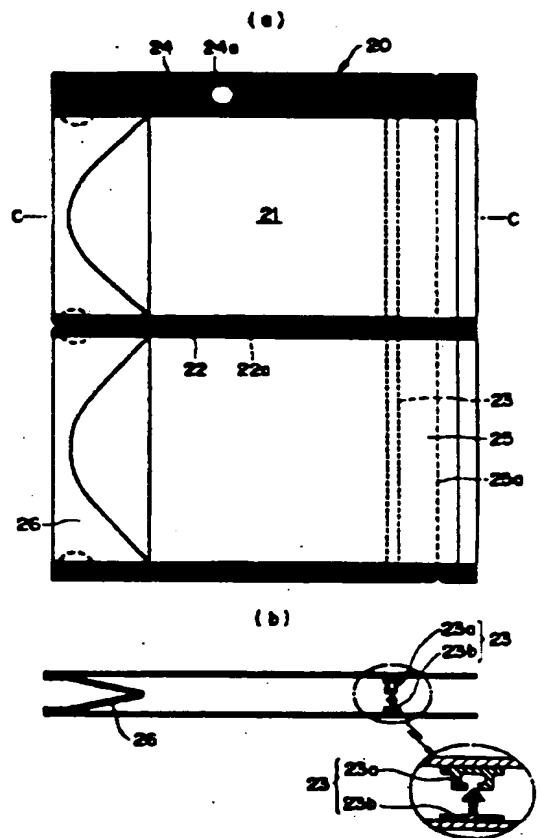
11, 21, 31 …… 袋本体

12, 22, 32 …… ヒートシール部
13, 23, 33 …… 咬合部
14, 24, 34 …… 吊り下げ部
15, 25, 35 …… 開口用封止部
26 …… 自立用袋底部
37 …… 分離用裁断線

【図1】



【図2】



【図 3】

